

8108 家内は、私の小説の熱心な・・・

家内は、私の小説の熱心な読者ではない。面白くないから、滅多に読まないのだ、と言っている。しかし、面白くないからだけでなく、読んで不愉快になるのが厭だから、あまり読まないのであろう。それでも、いくらかは読んでいるわけで、私に言う。

「あなたって、意地悪ね。どうして私をあんなに悪く書くの？」

ところが、私は、自分が意地悪く妻を書いたり、モデルにしたりしたとは思っていないのである。

古山高麗雄『作家の妻』

〔許容訳例〕

My wife isn't an enthusiastic reader of my stories. "They aren't interesting, so I seldom read them," she always says. But I'm sure the reason is not only that they are not interesting. She seldom read them, I suspect, because she doesn't want to be upset by reading them. She does, in fact, read some, and says to me, "You're spiteful, aren't you? Why do you describe me so bad in your stories?" But I don't mean to write spitefully, much less take her as model in my stories.

〔翻訳例〕

My wife is not an enthusiastic reader of my stories. "They're too dull, she says. However, it's probably not just because they're dull; she doesn't read them much, I suspect, because she doesn't want to be upset by them. She does, despite what she says, read some at least, for she once said, "I think you're mean. Why do you always make me so unpleasant in your work?" In fact, though, I don't feel I've taken her as a model, much less deliberately make her look unpleasant.

■家内は、私の小説の熱心な読者ではない。(8108)

★「家内」は my wife です。

★「私の小説の熱心な読者」は an enthusiastic reader of my stories です。「小説」は novels でもいいのですが、novel と言うと「長編小説」しか入らなくなりますが、多分、短編小説もあるでしょうし、ここでは小説を書いた人がこの文章を書いてるのですから stories を使う方が謙遜の気持ちが出ます。

★「熱心な読者」は an enthusiastic reader でしょう。「熱心な」は「者（人）」ではなく「読む（行為）」に懸かっているのですから earnest とか devoted ではなく enthusiastic でしょう。

◆「・・・ではない」は、isn't でも間違いではないのですが、ここは「私の小説の熱心な読者」というフレーズがあって、それを否定しているように感じられます。非常に微妙なのですが、英語の否定には not(A=B) と A=not B があり、negative を強調する場合、isn't ではなく is not としたくなるのです。

■面白くないから、滅多に読まないのだ、と言っている。 (8108)

★「面白くない」は *They aren't interesting* でもいいですが、後に「・・・から読まない」と続くので *They are too dull* が一番自然な英語です。

● [から]

[から] は *so* とか *because* ですが、*too dull* にすると *too* の中に「だから読まない」が不摘要れますから、後に *to read* を付けなくても意味は通じます。

★「滅多に読まない」の「滅多に・・・ない」は *seldom* でもいいですが、すこし堅い感じがします。このような場合は *hardly ever* の方がはるかに多く使われます。

★「・・・と言っている」は、幾度も同じようなことを言っているのでしょうか。「いつものこと」を表すのは、英語では現在時制です。

●直接話法的な地の文の処理

「面白くないから、滅多に読まないのだ、と言っている。」は直接話法のようですが、幾度か「つまらないから読まない」というような内容のことを聴いているので「(妻は常々)言っている」と現在時制になっていると思われます。英語の直接話法はどういう言い方をしたかに関心があり、間接話法はどういう内容を言ったかに関心があります。ですから、この文は間接話法で *They're too dull, she says.* とします。日本語の表層表現に合わせると *She hardly ever[seldom] read them, she says, because they are dull [not interesting].* とすることになりますが、*because* を使った文には、二つの意味が考えられます、一つは日本語と同じく「面白くないから滅多に読まない」という意味と、もう一つは「滅多に読まないんだ、なぜかというと面白くないから」という意味です。比重がちょっと違います。この場合、英語としては、「読まないのだ」という意味の言葉を加えると、意味がダブってしまうように感じられるのです。それで、*They're too dull, she says.* が一番自然ということになります。

■しかし、面白くないからだけでなく、読んで不愉快になるのが厭だから、あまり読まないであろう。 (8108)

★「しかし」に *but* を使うならコンマを打たないで使い、コンマを打つなら *however* です。

★「面白くないからだけでなく・・・」は「理由は面白くないだけでなく・・・」とするなら *the reason is not only that they are not interesting [that they are dull]...* ですし、*it is because...* なら *it's not just because they're dull [they are not interesting]...* でしょう。なお、表面には現れていませんが、これは筆者の想像なので、「たぶん」とか「きっと」が言外に感じられるので、どこかに *I'm sure* とか *probably* を加えるといいでしよう。

★「読んで」を *by reading* とすると単に手段を言うことになります。目的語を入れるか、*reading* を外すかです。つまり *by reading them* か *by them* です。

★「不愉快になる」は *be upset* がいいでしょう。*upset* は「平常心・バランスを失わせる」ということなので、いろいろな意味になります。「動転させる・動搖させる・うろたえさせる・残念がらせる・悲しませる・怒らせる・不愉快にさせる、などなど。

● 「……[で]……になる」(主動詞+句)

「読んで不愉快になる」の「[で]」は「手段の[で]」(by reading)ではなく「状態・動作+ [て]」を短縮するために用いられる連結辞の「[で]」ですから、ここは「……して(by reading them) (句)……不愉快になる(be upset) (主動詞)」→「主動詞(be upset)+句(by reading them)」です。 「主動詞+句」は He became proficient in English by reading many books. / he succeeded by working hard.など、「……[で]……になる」のいろいろな場面で使います。 なお、ここでは by reading them の代わりに by them でも同じ意味になります。

★ 「なるのが厭だ」は do not want to be…です。

★ 「(彼女は) あまり読まない」は、she seldom read them でもいいのですが、「あまり読まない」の訳としては she doesn't read them much の方が口語的で一番この日本文に合うと思います。日本人の書く英文にはあまり見られないのは、辞書に例文がないからでしょう。『ランダムハウス英語辞典』の much (adv.) の最後のところに I haven't seen him much this year. (今年は彼にあまり会っていない) がひっそりと入っています。

★ 「……のであろう」は、ここでは I suspect がいいと思います。

■ それでも、いくらかは読んでいるわけで、私に言う。(8108)

★ 「それでも、いくつかは読んでいる」の「それでも」は、辞書には nevertheless がでていますが、そのまま Nevertheless,…とすると、前の…because she doesn't want to be upset by reading them.に懸かってしまいます。この「それでも」は「読まないとは言うものの、それでも、いくつかは読んでいるわけで……」ということなので、その意味関係をはっきりさせるためには despite what she says というような表現を入れるか、あるいは、ここは強調の do を使える典型的な場面なので、she does, in fact, read some とすることができます。 なお、「いくつかは」の「は」にこだわるなら…some at least とすればいいでしょう。

● [で]

「いくつかは読んでいる [わけで]、私に言う」の「[わけで]」の処理が難しい。この「[わけで]」は「それで」と加えることも出来るので and でいいのですが、and ではちょっと弱い感じがするので、for を使うことになります。 for を使うと「(いくらか読んでいなければこういうこと (次に述べる直接話法の文) を言うわけない) だからなんだ」というニュアンスが加わることになります。

★ 「……で、私に言う」は and [for] she says to me, “…?”でもいいのですが、いつもいつも習慣的に言っているとは考えにくいので、and [for] she (once) said to me, “…?”とした方がいいと思います。

■ 「あなたって、意地悪ね」(8108)

★ 「意地悪」はいろいろありますが、 spiteful は日本語の「意地悪」より意味が強いと思います。何か根に持っていて、機会があったら仕返ししたいというニュアンスが含まれています。これは malicious に近く、どちらかと言うと使いたくない言葉です。 ここでは mean が一番いいと思います。この言葉も context によってはいろいろの意味 (たとえば、「下劣

な・卑しい・みすぼらしい・ケチな)になりますが、「意地悪」が一番当たり前な使い方です。たとえば, He has a mean look. (意地の悪そうな顔をしている)のように。

★「(意地悪) ね」の「ね」ですが, ここでは念を押したり・確認したり・同意を求めたりするときに使う付加疑問文 (ここですと, You are…, aren't you?) ではなく, 断定的に使われているので, I think you're…とした方が「ね」と合います。

■「どうして私をあんなに悪く書くの?」(8108)

★「私をあんなに悪く書く」は describe[treat] me as so pleasant in your stories[work]とか make me so unpleasant in your stories[work]くらいでしょう。「どうして…あんなに」の中に「いつも」が感じられますから always を加えてもいいと思います。なお, 「悪く」に bad を使うと「非常に悪い」ということですから, ここでは wicked に近くなります。

■ところが, 私は, 自分が意地悪く妻を書いたり, モデルにしたりしたとは思っていないのである。(8108)

★「ところが」は but でもいいですが, ちょっと弱いです。In practice とか, In fact あるいは In fact, though, としてもいいと思います。

★「意地悪く妻を書く」は describe her spitefully でも意味は通じると思いますが, あとに「…した (とは思っていない)」が出てくるので, 完了形を使って I've made her look unpleasant とするといいと思います。なお, この日本文には「(ことさら・わざと・故意に)意地悪く…」が感じられるので, deliberately を加えると「意地悪く」の感じが十分に出るのではないかと思います。

★「モデルにする」は take her as a model です。

●「意地悪く妻を書いたり, モデルにしたり…」ですが, 単なる並列ではなく「意地悪く妻を書かなかったどころかモデルにしたことさえない」と感じられます。その感じを出すには, {単位情報} の配列が逆になりますが, much less を使って I've taken her as a model, much less deliberately made her look unpleasant とするといいでしょう。

★「…したとは思っていない」は, 「…した」に引かれて I didn't mean to…と過去時制にすると, これは書いたときの気持ち, つまり, 「結果としてはそういうことになったかもしれないけれど, 初めはそういう気持ちで書いたのではない」ということを伝えることになるので, ちょっと日本文のニュアンスとは違うように感じられます。ここは「思っていない」に合わせて I don't feel…がいいと思います。